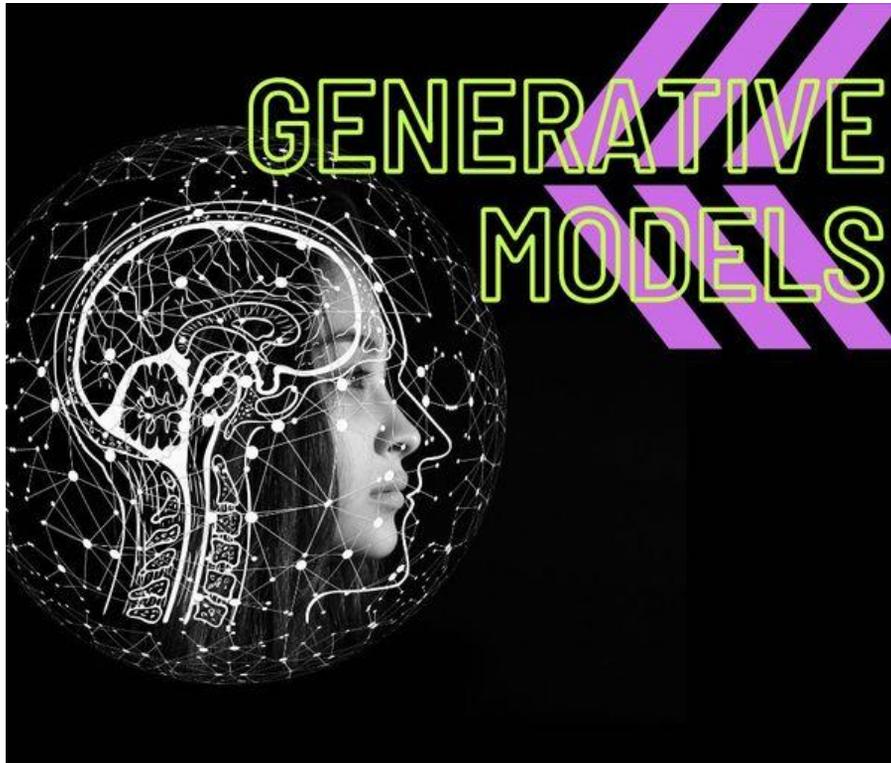




No.92 「人への投資」のホントの意味



(画像生成AI が作成したイラスト)

いま政策のど真ん中にあるのが「人への投資」。私は大賛成です。投資というからには返済を求めてはいけません。大化けして返ってくるかもしれないけど、返ってこないかもしれないというのが投資です。奨学金を返せというのは投資ではない。

親は子供にお金をかけますが、かかったカネを返せとは言いません。でも親孝行な子供は何十倍も大きくして返すでしょう。カネでは測れない愛や恩を生涯かけて返し続けるでしょう。

銀行の教育ローンは返さなくていいというわけにはいきませんが、国の財源で投資するのなら国民である限り将来税金で返ってくる可能性が高いわけですから、国債、それも投資的経費を賄う建設国債を出して奨学金を支給すればいい。企業の場合「人」こそ企業競争力の源泉ですから、研修や教育機会を作ってそこに投資するのは合理的な企業行動です。でもそのスキルを身につけた社員がライバル企業に引き抜かれたら、逆にマイナスになってしまいそう…？



谷口博文の政策イノベーション

Date :2023年4月3日

いや違うでしょう！ スキルを磨いた社員がその会社で働きたいと思うような魅力的な職場にして、待遇をよくすることも含めて投資する必要があるわけで、投資をして損した、と考えるような会社では将来はないでしょう。

学びの中心は学校教育です。日本の学校教育費に対する公財政支出GDP比はOECD最低水準。確かに1学級40人に皆同じことができるよう教育するのは安上がりだったかもしれませんが。しかし飛び抜けた子を伸ばせないだけでなく、不登校が24万人を超え、特別支援の必要な児童生徒は約50万人、この10年間で倍増しているような状況です。

いまや目指すべきは一律ではなく「個別最適な学び」。一人ひとりに向き合いその子の関心や興味に応じて学習機会を提供する学校、今の言葉で言えば多様で包摂的な教育が求められているのです。

そのためには教員も従来のままではダメです。変えるには人もおカネも知恵もいる。いまだに根強く残っている指導方法や画一的発想をやめて、新時代に向き合う教育現場に優先的に国のリソースを注ぎこむ、それが投資の中身だと思います。生成AIの発達でイラストを描いたり論文や企画書作成のサポートをしたり、今まで人間しかできないと思っていたクリエイティブな活動がコンピューターにもできるようになってきました。

機械も学習します。人はAIに何を学ばせるのか、そして人は何を学ぶのか？ 人材育成・教育の場面で現在はまさに文明史的な岐路に立っている時だと感じます。